旭区子育て支援連絡会学習会「居場所を支える　みんなの力」 要約

実施：2026年１月7日　14：00～16：00　旭公会堂

１　開会あいさつ　　旭区子育て支援連絡会　代表　栗城明日香

旭区子育て支援連絡会は0～18 歳を対象にした子育て支援活動を推進、こどもが健やかに育ち、安全に安心して子育てができるまちづくりを目指して活動している。

旭区子育て支援連絡会の今年度のテーマ：こども・子育て世代が活躍できる場づくり

２　講演「居場所を支えるみんなの力」　子ども未来サポートオフィス　米田佐知子　氏

1）居場所の背景

・居場所は物理的なもの、精神的なもの・・・空間・場・機会づくりだけのことではない。

40 年前に不登校・登校拒否の子が通える場が出発点。その後、障害者、子ども若者、乳幼児親子、高齢者、外国人、LGBT など広がっていった。今はあらゆる人に居場所が必要になっている。

・どんな場か：安心感、避難所、自分を取り戻す、回復・充足、選べる、きっかけ、関係性

そこでその人らしい過ごし方を自分で選べることが大切。

〇こども・若者の居場所づくりにおいて大切にしたい視点

こども・若者の主体性の尊重、その場を居場所と感じるかどうか等は本人が決めること

こども・若者の声（視点）を軸に「居たい・行きたい・やってみたい」の3つの視点

居たい：居ることの意味が問われない、安心・安全な場、くつろげる環境がある、居たいだけいられる、一人でも行ける、お金がかからない等

やってみたい：いろんな人と出会える、好きなこと、やりたいことができる等

〇新しいコミュニティのとらえ方

昔：隣近所を知っていておせっかいする。事情を知っていて声をかけてあげられる。

今：近所に知られたくない。それぞれがサービスを利用、横のつながりがなくなり孤立。

→新しいつながり方：ゆるく多様に自分が選択しながらつながっていく。

2）居場所づくりの意義

子育て支援のことは当事者に聞いてほしい。

居場所が多様にあること、一人と一人の関係にも居場所はある。やりたいと思った人が提供できるものを持ち寄って居場所をつくる→仲間ができる。活動に余白があることが大事。居場所を作って顔見知りを増やす。気にかける人のつながりづくり。子どもが育つには多様な人の関わりが必要。

3）居場所づくりのポイント

・身近に感じる、我がごとになる、過程が見えている、過程に参加する

・つくりこみすぎない：常に場は変わり続ける、こだわりを引き算する

・参加者をお客さんにしない：運営する側の自己開示。弱さも持ち込む。お互い様の関係に近づける。

・持ち寄りで（自分たちを知る）：（具体的に）助けてほしいことをお願いする。自分が持つ力に気づく。

私の・僕の「大切な場所」に。小さく始める。変化し続ける。みんなで育てていく。

居場所を地域に開いて地域の窓口になる→気にかけあうまちづくり

パネルディスカッション

1)活動紹介

●旭区社会福祉協議会ボランティアセンター　加藤さん(大学１年生)

大学入学後、先生よりボランティアセンターの存在を知った。ひとり親家庭応援デー、放課後等デイサービス、障害者地域活動ホームあさひで活動し、一人ひとりに合わせた関わり方などを知った。

●みやまえ塾　森本さん(大学２年生)

立ち上げに関わり、学習支援、季節に合わせた活動などを行っている。子育て支援事業(こども食堂、赤ちゃん向け事業) や高齢者支援、多世代交流、ひとり親支援事業も取り組む。

●親子サロンメダカ　吉岡さん・花輪さん・栗城さん

親と子のつどいの広場。親子でリトミック、絵本読み聞かせ等定期開催し、近隣と連携して年に何回かイベント実施。高校生、ジュニアボランティアの受け入れ、子育てサロンとも連携している。

●らんらん食堂　スタッフさん・ボランティア(高１)さん

自分が楽しみたいと思って始めた。いろんな世代で交流してほしい、ちょっと声をかけあってほしい

社協、企業、個人など多くのサポートがあり、必ずスタッフ、利用者全員で周知共有している。会を継続していく為に大事なのはスタッフの存在。

2)ディスカッション

●活動のきっかけ、続けている理由

・加藤さん　社会福祉を学ぶ中で、これからどんな分野に関わっていこうか考えていきたいと思ったのがきっかけ。行動の後押しは小学校のときのジュニアボランティア。楽しかった。学ぶことが多く、普段関わらない人と関われるのが魅力。学びの手ごたえを感じながら活動を続けている。

・森本さん　高2の時、大学のオープンキャンパスで子ども食堂を知り、自分にもできるのではと思って調べたのがきっかけ。他大学、親世代、仕事帰りの男性の人など普段関わらない人と関わるのが楽しい。やってみたいことを伝えると協力してくれ一緒にやろうと言ってくれる。

・吉岡さん　子どもがいて利用者だった。関係が途絶えるのが寂しいと感じた。何か手伝えないか考え、つながっていられたらと考えた。親子と関わるのが楽しいのが続ける理由。人間関係が良い。専業主婦だったので役に立てたと思えたのもよかった。

・花輪さん　もともと利用者。人見知りが強く、頼れる人が近くにいなかった。感じがよく居心地がよくて恩返ししたいと思った。以前幼稚園、保育園で働いていた。子どもが小１になるタイミングで支援者へ。利用者の子どもがかわいくて癒される。

・らんらん食堂ボランティア(高１)さん　１回目に参加して食事がおいしく、知らない人もいて楽しかった。高校生になったらボランティアをやりたいと思っていた。続ける理由は楽しいから。高校生と違った見方での話が楽しい。

・らんらん食堂スタッフさん　利用者だけでなくスタッフも笑顔を絶やさない為にも、楽しんでもらうのが大事。

●楽しいと思うことは。やりたいことがやれるとは。

・栗城さん　できないことはできない、やりたくないことはやりたくないと言える環境。こんなのどうでしょうと言える環境。自由度が高い。

・らんらん食堂スタッフさん　ウエルカムの雰囲気を出すことが大事。楽しんでいるスタッフが知人を紹介してくれたりする。

・らんらん食堂ボランティア(高 1)さん　挨拶が大事なポイント。しばられていないのがウエルカムを感じる。

・森本さん　気さくにスタッフさんが話しかけてくれる。いろんなことが言える環境がある。

・加藤さん　周りの方がやさしい。頑張っているねと声かけられ、人のやさしさに触れられる。

・森本さん　普段関わらない人と話せるのが楽しい。

●質疑応答

・男性の参加者少ないと思うが男性の参加はどのくらいか。

➡メダカは現在いないが大歓迎。みやまえ塾は 3 割程度。らんらん食堂は1名。リモートでインスタ投稿を担当している。年に一度の懇親会には参加。

・メダカの会の有償ボランティアか。費用捻出は。

➡親と子のつどいの広場として運営し、有償ボランティアである。

●振り返り、大事だと思っていること、メッセージ

・加藤さん　ボランティアセンターは心強い存在だが認知度が足りていないと思う。ジュニアボランティアはその後につながる大事な機会。こういった活動ができる環境が広まっていくといい。

・森本さん　ウエルカムな雰囲気がとても大切。運営側に回ることもあり、自分が受けていたことを大切にして活動していきたい。　→講師：学び取って生かしていく力が場を豊かにしていく。

・栗城さん　ボランティアは大変そうというイメージあるが、楽しかった、よかったことを噂話で回していけばボランティアは楽しいとなっていくと思う。

・吉岡さん　大学生、高校生がしっかり活動をされていてすごいなと思った。親としてジュニアボランティアは自分の子にもやって欲しいし、周りに広がると良いと思った。

・花輪さん　地域みんなで子育てで救われた。メダカが自分の1つの居場所になっている。来ている人にもそうなっているといいと思う。

・らんらん食堂ボランティア(高 1)　さん　学校でボランティアやっている子は少ない。楽しさ、やりがいを周りの友達に広げて若者もボランティアができるような人助けになったらと感じた。

・らんらん食堂スタッフさん　大事なスタッフ、自分が楽しむだけでなく、継続してもらうことが大事。若いスタッフを大切に育てていく。

→講師：育ちあっていることが伝わった。いろんな団体で継続について考えていけるとよい。

米田先生よりまとめ

・居場所を使い分けできることが大事。大人数、少人数、それぞれの良さ、役割がある。エリア内にいくつかの居場所があって、紹介しあって、使い分けできるといい。

・まちそのものが居場所になれることが大事。普段の暮らしの中で SOS できる場所があるか、種まきがで

きる形で運営できるといい。

・運営している人が気持ちよく活動できているコミュニティがあることが、参加したいと思える空気感を醸し出す。まずはお互いを大事にしあう人間関係をしっかり固めることが大事。

ヒントがたくさんあったと思うのでぜひ1つでも2つでも生かして活動が豊かになっていったらと思う。

3　閉会のあいさつ　旭区こども家庭支援課長　河合太一

今回のテーマは居場所を支えるみんなの力。パネリストには若い人にも来てもらえ、ヒントがたくさんあったように思う。印象に残ったこととして活動が楽しいということが一番大事ということ。居場所は精神的な身の置き所、自分の役割、出番があり、回復、充足でき自分が取り戻せる場。今回のお話で活動のエネルギーは人とつながりと確信が持てた。隣の方と感想を交わしていただくと次の新しいことにつながって行くと思う。本日はありがとうございました。